全老健事務局

2026年度 老健施設向けDX推進リーダー育成講座 申込み受付中

研修（助成金）申込み締め切り 7/27

受講前と受講後で施設の DX 推進力はここまで変わる

老健施設の DX は、機器を購入すれば進むものではありません。

本当に必要なのは、自施設の課題を整理し、「何から始めるか」を考え、現場に説明し、導入後の運用まで支える人材です。

2026 年度の「老健施設向け DX 推進リーダー育成講座」は、施設長・事務長だけでなく、看護・介護・リハビリ部門の管理者、ICT 担当者、LIFE 担当者などが、施設内で DX を実現する力を身につけるための実装型講座です。

本誌 6 月号でも案内した本講座について、今号では、受講によって職員と施設がどのように変わるのかを、より具体的に紹介します。

受講前と受講後の５つの変化

1 DX が「なんとなく必要」から「何から始めるかがわかる」へ

受講前

DX が必要なことはわかっている。しかし、Wi-Fi、タブレット、見守り機器、記録ソフト、LIFE、生成 AI など、選択肢が多すぎて、何から始めればよいかわからない。

受講後

自施設の課題を出発点に、最初に取り組むべき DX を選べるようになる。先行施設の導入体験から、現場でつまずきやすい点、職員の抵抗を乗り越える工夫、導入後の変化を学び、「自施設なら何から始めるか」を考えられるようになる。

2 「よさそうな機器を入れる」から「現場に合った道具を選ぶ」へ

受講前

パンフレットや営業説明を聞いても、自施設に合う ICT 機器やソフトがどれか判断しにくい。補助金があるから導入する、評判がよいから導入する、という判断になりやすい。

受講後

現場に合ったツールを選ぶ視点、導入後の効果測定、職員への継続教育までを考えられるようになる。DX を「機器導入」で終わらせず、記録、申し送り、情報共有、家族対応、業務効率化につなげる視点が身につく。

3 LIFE や介護情報基盤を「制度対応」から「ケア改善の情報基盤」へ

受講前

LIFE や介護情報基盤を、提出しなければならないもの、入力しなければならないものとして受け止めている。

受講後

情報を集めるだけでなく、施設内で共有し、ケアの質の向上や業務改善に活かす発想がもてるようになる。これからの老健経営では、情報をどう使うかが重要になる。LIFE、介護情報基盤、電子的な情報共有が、施設運営を支える仕組みとして理解できるようになる。

4 生成 AI を「便利そうだが不安」から、「安全に使える業務支援ツール」へ

受講前

生成 AI は便利そうだが、個人情報保護やセキュリティの面で不安がある。施設として、どこまで使ってよいのか、職員にどう説明すればよいのか判断しにくい。

受講後

生成 AI を使える場面、使ってはいけない場面、職員教育のポイントを整理できるようになる。研修資料、家族向け説明文、議事録、事故報告書の下書き、施設内マニュアルの整理など、老健施設の文章作成業務を支援する道具として、生成 AI を現実的に活用する視点が身につく。

5 「詳しい人に任せる DX」から「施設全体で進める DX」へ

受講前

DX は、ICT に詳しい一部の職員に任せるものだと思われがちである。その結果、担当者が孤立し、現場に広がらないことがある。

受講後

施設長・事務長、現場管理者、ICT 担当者、LIFE 担当者が共通言語で話せるようになる。DX は、経営判断、現場運用、情報管理、職員教育、家族対応が一体となって初めて定着する。本講座は 1 施設あたり最大 3 名まで受講可能であり、複数名で受講することで、施設内に小さな DX 推進チームをつくりやすくなる。

DX 推進リーダーとは

ここで学べるのは、単なる知識ではありません。

説明できる

制度や DX の方向性を、施設内でわかりやすく説明できる。

選べる

自施設に合った ICT ツールや取り組みを選べる。

動かせる

現場の合意をつくり、導入後の運用まで支えられる。

1人で悩むDXから皆で動かすDXへ

2026年度 老健施設向けDX推進リーダー育成講座 スケジュール

1	2026年 8月26日(水)	DXとは、老健におけるDXとは何か	国際医療福祉大学　高橋 泰
		国の提唱する医療・介護情報基盤を知る ～効率的な情報連携を会得するには～	全国老人保健施設協会 副会長 高橋 肇
2	2026年 9月9日(水)	介護情報基盤助成金の活用方法とは 「これならできる!から始めるDX」	株式会社ビーブリッド　竹下康平
		導入体験事例 1 全館Wi-Fi、タブレット、情報共有ツール、見守りシステム	ユニットケア泉(宮城県仙台市)
3	2026年 9月30日(水)	現場に合ったツールを選ぶ視点と比較方法、 ICT導入後の効果測定と職員の継続教育	株式会社ビーブリッド　竹下康平
		導入体験事例 2 スマホ、ハナスト見守り、ノーリフト	六和会センテナリアン (大分県日田市)
4	2026年 10月14日(水)	エクセルをこう使うと作業効率アップ	国際医療福祉大学　高橋 泰 株式会社ビーブリッド　スタッフ
		介護記録・看護記録ソフトの使い方と効果的な活用	株式会社ビーブリッド　竹下康平
5	2026年 10月28日(水)	コミュニケーションツールと個人情報保護の基礎と 家族との情報交換	国際医療福祉大学　高橋 泰
		システム構築全般：運用体制、ネットワーク構築(Wi-Fi等)、関連補助金情報	株式会社ビーブリッド　竹下康平
6	2026年 11月25日(水)	セキュリティー基礎(個人情報保護・セキュリティーポリシー)・バックアップ(共有情報の保護)	国際医療福祉大学　高橋 泰
		導入体験事例 3 スマホ:導入と施設内普及	ひむか苑(宮崎県宮崎市)
7	2026年 12月9日(水)	ファイル共有と基盤ツール	国際医療福祉大学　高橋 泰
		導入体験事例 4 基盤ツール:導入と施設内普及	陽翠の里(石川県能美市)
8	2026年 12月23日(水)	人工知能と生成AI入門	国際医療福祉大学　高橋 泰
		生成AIを使った医療介護現場での応用	東日本税理士法人　長 英一郎
9	2027年 1月13日(水)	老健における生成AIの活用	国際医療福祉大学　高橋 泰
		導入体験事例 5 生成AIを中心とした導入と施設内普及	大誠苑(群馬県沼田市)
10	2027年 1月27日(水)	LIFEを理解する ～老健事例をもとに～	全国老人保健施設協会 副会長 高橋 肇
		導入体験事例 6 介護からみた地域情報連携:施設内導入から普及まで	高橋病院、ゆとりろ (北海道函館市)

今年度講座のポイント

本講座は、単なる制度解説や機器紹介ではありません。全10回を通じて、老健施設でDXを始め、広げ、定着させるための考え方と実践方法を学びます。

今年度は左のプログラムに示すように、先行施設の導入体験事例を複数回にわたり紹介します。全館Wi-Fi、タブレット、情報共有ツール、見守りシステム、スマホ、ノーリフト、クラウド型ファイル共有、生成AI、地域情報連携など、実際に取り組んだ施設の経験から学ぶことができます。

費用の壁を越えて、施設のDX人材を育てる

開催期間は、2026年8月26日から2027年1月27日までの予定で、オンライン講座として実施します。受講料は会員施設25万円で、1施設あたり最大3名まで受講可能です。本講座は、厚生労働省の人材開発支援助成金、事業展開等リスキリング支援コースの対象講座です。所定の条件を満たすことで、受講費用の大部分が助成金として還元されます。DX人材育成の必要性を感じていても、費用面が参加の障壁となっていた施設にとって、受講しやすい制度設計となっています。

老健DXの目的は、職員の負担を減らし、情報共有を円滑にし、ケアの質を高め、利用者と家族に安心できるサービスを届けることです。ぜひ各施設から複数名で参加いただき、DX推進の第一歩としてご活用ください。

お申し込みは全老健ホームページから

研修(助成金)申込み締め切り 7/27